



01

山口レインボープライド2024に参加しました

令和6年6月29日(土)に山口市中央公園で開催された「山口レインボープライド2024」へ、山口大学ダイバーシティ推進室は「ilma(イルマ)」(どんな性的指向や性自認でも、あたりまえに安心して生活できる環境づくりを目指す学生団体)と共同でブースを出展し、パネル展示やかき氷販売を行いました。

このイベントは、性的マイノリティの方に対する差別や偏見を無くし、正しい理解を広めるために実施されたもので、近年全国各地で開かれており、山口県では令和5年度に続いて2回目の開催となりました。当日、来場者は同時に開催された「地元のチカラまつり」とともに、音楽やトークショーなどのステージ企画や出展ブースのコーナーなどで楽しんでいました。また、午後からは「プライドパレード」が実施され、360人の参加者がプラカードやレインボーグッズなどを身に付けて市中パレードを行いました。

今回参加したことによって、山口大学が策定したSOGIガイドラインなど、性的指向と性自認を尊重するための取組・活動を多くの方に知ってもらうことができ、また、他の支援団体との交流を深めることができました。



02

玉田耕治細胞デザイン医科学研究所長らが令和6年度全国発明表彰を受賞しました

令和6年7月11日(木)、公益社団法人発明協会主催による令和6年度全国発明表彰にて、細胞デザイン医科学研究所長の玉田耕治教授、所員の佐古田幸美准教授と安達圭志講師が、「免疫機能制御因子を発現する免疫担当細胞の発明」において「未来創造発明奨励賞」を受賞しました。

玉田教授らの発明は、がん治療に用いる「PRIME CAR-T細胞」に関するもので、従来の細胞では血液がんに対しては高い有効性を示してきた一方で、固形がんに対する有効性を示すことが難しいという課題の克服につながることから、今回の受賞に至りました。

また、今回の受賞の栄誉を称え、谷澤幸生学長に「未来創造発明貢献賞」が併せて贈られました。さらに、文部科学省大学知的財産本部整備事業により特許庁審判部門長から山口大学教授・知的財産本部長として就任して以来、20年にわたり本学の知的財産活動・産学連携活動に尽力し、ひいては本学が全国の大学知財のモデル校として認識されるまでに貢献された佐田洋一郎教授(特命)も「発明奨励功労賞」を受賞し、本学関係者では併せて3件の受賞となりました。



03

人文学部の尾崎千佳教授が令和6年度第78回芭蕉祭文部科学大臣賞を受賞しました

令和6年10月12日(土)に三重県伊賀市で開催された第78回芭蕉祭(主催:伊賀市、芭蕉翁顕彰会)において、俳文学(連歌、俳諧、俳句など)の優れた研究書に送られる文部科学大臣賞が、人文学部 尾崎千佳教授の著書「西山宗因の研究」(八木書店刊)に贈られました。この賞は令和5年4月1日から令和6年3月31日までに刊行された「連歌・俳諧・俳句」に係る著作を対象に選考されるものです。

選考委員からは「西山宗因全集に編者として関わった著者による徹底した資料の収集とその客観的分析であり、宗因伝記研究の金字塔」と高く評価されました。西山宗因(1605~82年)は、肥後八代城主の家臣を務め、主家の肥後加藤家の改易で浪人となり、その後、連歌師になった人物で、60代以降は俳諧師としても活躍し、芭蕉や西鶴に多大な影響を与えました。

また、令和6年10月30日(水)に尾崎教授から谷澤幸生学長へ今回の受賞について報告が行われ、谷澤学長から、「長年の研究成果をまとめた著書は、山口大学人文学部出版助成事業第1号に相応しく、人文学部の他の研究もこれに続いて欲しい」との期待の言葉がかけられました。



04

教育学部学生が首里城復興事業の一つである「向拝奥の彫刻物」の製作に参加しました

沖縄県では、令和元年10月の火災により焼失した首里城の復元に向けた取り組みとして、令和2年度より首里城復興事業を行っています。この事業の一つである「首里城復興基本計画推進事業による向拝奥の彫刻物(牡丹に獅子・唐草)等の製作」を山口大学は受託し、教育学部上原一明教授の下で令和5年から製作作業を進めてきました。約2年間の期間を経て、令和7年1月に製作が完了し、山口大学から国へ「向拝奥の彫刻物」の引き渡しが行われました。なお、引き渡し後は彩色が施され、令和8年秋に完成となる予定です。

彫刻物の粘土原型製作に製作補助として参加した教育学部美術教育選修4年生の赤嶺真奈嘉さんは、「沖縄県出身として今回の首里城復興に少しでも関わることができ、とても光栄でした。木彫の作業では、木目の向きに気をつけながら彫るのが難しく、上原先生の指導のもと試行錯誤しながら行いました」と作業を振り返っていました。

学生達が製作補助した「向拝奥の彫刻物」の試し彫りは、国立首里城公園内資料館に展示される予定です。



山口市のニューヨーク・タイムズ選出による経済効果を算出し、「山口観光経済シンポジウム」を開催しました

令和7年2月12日(水)に山口大学 吉田キャンパス大学会館大ホールにて、「山口観光経済シンポジウムーNYタイムズによる山口市選出から1年」(主催:山口大学経済学部、共催:財務省中国財務局山口財務事務所)が開催され、市内観光業や行政、経済関係者、一般から計142人が参加しました。

経済学部加藤真也准教授の研究室は、山口市がニューヨーク・タイムズ(NYT)の「2024年に行くべき52カ所」の3カ所目に出選されたことによる山口県全体への経済効果について、令和6年5月時点では令和6年の1年間で見込まれる経済効果をおよそ90億円と算出していましたが、その後、湯田温泉街やJR新山口駅などで消費単価のアンケートをやり直すなど、NYTの効果を試算し直し、当初の見込みより36億円ほど低い54億円であったとの推計結果を発表しました。

本シンポジウムのパネルディスカッションにも加藤准教授の研究室の学生が参加し、観光地としての魅力を高めるための課題や改善点について議論を行い、山口市や山口県の今後の観光のあるべき姿について参加者と共有することができました。



大学院創成科学研究科の富士彩紗さんが日本学術振興会「育志賞」を受賞しました

令和7年3月6日(木)、山口大学大学院創成科学研究科ライフサイエンス系専攻博士後期課程3年の富士彩紗さんが、第15回(令和6(2024)年度)日本学術振興会育志賞を受賞しました。この賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に創設されたものです。

富士さんは、本学理学部生物・化学科(現 生物学科)に入学後、大学院創成科学研究科修士課程、同博士課程へ進学し、植物の光合成に必須な気孔開口の分子機構の解明に一貫して取り組んできました。この研究過程において、気孔開口の駆動力形成を担う細胞膜H⁺-ATPaseが、光に応答して自己阻害領域内の2箇所のリン酸化により活性化することを発見しました。

富士さんは、生化学や分子生物学、分子遺伝学など、多角的アプローチによる研究に粘り強く取り組み、長年に渡り不明であった気孔開口の駆動力形成の仕組みを解き明かし、本領域の研究を大きく前進させました。我が国の将来の学術研究を先導する研究者として成長することが期待されます。



Financial data Governance

—財務データ・ガバナンス—

